



これからの **救済会病院**



院長 藤 久和

地域の皆様におかれましては、いつも格別のご引き立てを頂きありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延したこの3年は私たち病院も、感染予防に全力を尽くし、医療提供を続けてまいりました。5月より2類相当から5類へ移行するにあたり、なんとなく終息の兆しが見え始めていますが、まだまだ油断はできないと考えております。

今後コロナ禍が収束した未来を見据え、当院も地域の皆様に信頼される医療機関であり続けるために、地域とともに協力して取り組んでいく所存ではございますが、その為には病院での現状をお知らせしたほうが良いと考え本稿を掲載させて頂きました。

最初に、残念ながら現在消化器内科の常勤医が不在となっております。上下腹部内視鏡検査などは非常勤医で実施していますが、これまで通りの予約枠などが確保できず皆様にご迷惑をおかけしております。病院としては今後も医師確保に努めて参りますが、ご理解の程、宜しくお願い致します。

一方で救急・総合診療の医師は充実して参りました。先生方の所でご診療して頂いている患者さんの病状が急に悪化した場合など、当院で診療可能な症例は出来るだけ対応させて頂こうと考えております。ご紹介の程宜しくお願ひ申し上げます。

二次医療圏としての神戸市は東西に長く、医療施設において地域格差があることが問題視されており、中央区周辺のエリアと神戸西部地域で医療機関に偏りがあり、医療の格差があることも否めません。西区、垂水区、北区の医師1人あたりの診療科目別患者数は全国平均よりも多く、特に内科、小児科、精神科で高い傾向が見られる一方で、西区、垂水区、北区での医師数1万人当たりの診療科としては全国平均よりも低く、特に脳神経外科、整形外科、産婦人科で不足していることが示されています。神戸市西部地域においては、医療需要が高く供給が不足していることが示唆されています。

また、垂水区は高齢者の割合が全国平均よりも高く、在宅医療や緩和ケアの需要が高まっています。高齢者の疾病構造や社会的支援の複雑化によって、これまで注力してきた脳外科や循環器科などの専門医だけでは医療が成り立たず、多様な医療ニーズに応える事が困難となってきております。厚生労働省が実施する「医師等の動向調査」によると、神戸市垂水区での医師の平均年齢は、2021年時点で54.5歳となっており、全国平均の50.9歳よりも高くなっています。また、65歳以上の医師の割合も、神戸市全体の10.8%に対して、神戸市垂水区では13.0%と高い傾向にあります。本地域で今後の資源としての医師数は働き方改革も相まって厳しくなっていくことが予想されます。

現在、国が進めている地域医療構想は地域の医療ニーズに応えるために、医療機関や医療従事者、地域住民などが



協力して地域の医療を支えるための計画ですが、実行するためには、住民や医療関係者、政府が協力して取り組んでいく必要があります。

当院でも前述の救急・総合診療を発展させるとともに、昨年より神経内科の常勤医が脳卒中やパーキンソン病などの神経疾患に対して診断・治療を、非常勤ではありますが、腫瘍内科の専門医が外来を開始し、患者様の症状の改善や生活の質の向上に努めています。また本年5月より緩和医療科を立ちあげ、現在は主に入院中の患者様ですが活動を始め、末期がんだけでなく、超高齢者に対する医療として、痛みや不安などの症状を和らげ、心身の苦痛を軽減するための医療提供に取り組んでいきます。

神戸掖済会病院は、今後も地域住民が安心して医療を受けられる環境づくりを目標に、医師やスタッフの研鑽を積み、医療技術の向上に努めてまいります。また、地域の皆様との連携を深め、地域に根ざした医療を提供することが重要と考えており、地域の医療機関や地域住民との情報交換やコミュニケーションを積極的に行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

救急救命部 発足

神戸掖済会病院の救急救命部を紹介させていただきます。

救急救命部は医療国家資格である救急救命士の資格を取得したスタッフが在籍しており、令和5年4月から6人体制で救急救命部として部署を独立することとなりました。

救急救命士とは急病やけが人が発生した場所から医療機関に搬送し、入院するまでの間に傷病者を観察し、必要な処置を施すプレホスピタルケア（病院前救護）を担う医療国家資格です。

令和3年10月に救急救命士法が一部改正され、厚生労働省が定めた研修や院内体制が整えば病院内（救急現場から入院もしくは帰宅するまでの間）でも処置が可能となりました。

法改正を受け消防機関に問わず病院などでも救急救命士を採用する医療機関が近年増

加してきています。

当院での主な仕事内容ですが、救急外来に拠点を置き救急車やウォークインで来院された患者様に対する、医師、看護師の診療及び処置の介助、各検査室への移送を行っております。

今後は救急外来チーム一丸となって他病院や他施設との連携を密にし、転院搬送の充実、救急外来でのマンパワーの投入、トリアージの充実化、夜勤体制の構築、診療の質の向上、スムーズな診療を提供し、より安心、安全な医療の提供を心掛けていきたいと考えております。

主任救急救命士 榎井 倫理



〒655-0004

神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号

TEL : 078-781-7811 (代表)

FAX : 078-781-1511

<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>